

デュッセルドルフ日本クラブの会長様へ

2021年7月14、15日の激しい大雨により起こされた洪水は、NRW州並びにその周辺の地域の何万人もの住民に大きな苦難を与えました。荒廃の程度はいかなる想像をも超え、人々は家族の喪失を悼み、自分達の居場所が瓦礫と化したのを目の当たりにし、町や村全体が破壊された場所さえあります。私たちは皆、長期にわたる復興の入り口に立たされています。

このような困難な時期に、被災地の人々が経験した多くの支援と連帯への動きには希望が与えられます。それは、近隣どうしの強い助け合いの精神、自発的な、また職業としてのヘルパー達のたゆまぬ努力、そして自主的に取り組み、支援を提供し、被害者達を慰めた全国各地からの無数のボランティア達のことです。

これまでに届いた、多くの大小の寄付も連帯の強い印です。その寄付も、被害者達に励ましのシグナルを送ります。つまり、「私達は皆助け合う、あなた達は一人ではない！」というメッセージです。

「NRW州は互いに助け合う」、これが、震災直後に私の主導で設立された、国内の主要な援助団体からなる寄付連合のモットーであります。連合はすでに25,500人以上の寄付者から、約1400万ユーロの義援金を受け取っています。

デュッセルドルフ日本クラブから「NRW hilft」に寄せられたとても寛大な義援金により、救援組織が被災地で緊急援助を提供し、差し迫った困窮を軽減し、今もなお被害者を助けることが可能になりました。貴団体の連帯・同胞意識に心より感謝致します。NRW州は、このような非常に寛大で信頼できるパートナーを持つことができたことを嬉しく思います。

アルミン ラシェット